

## 乳幼児健診に対する保育者の意向調査

鈴木和子  
村川雅子

### 〈はじめに〉

乳幼児健診には、行政のおこなう種々の健診をはじめとして、医療機関において実施する健診、保育園等で行う健診等があり、それぞれに充実してきている。

行政で行っている健診は、医師会等に委託して行っている健診を含めると、子どもの発育段階に応じて「新生児訪問指導」「3・4ヵ月健診」「6・9ヵ月健診」「1歳6ヵ月健診」「3歳児健診」があり、それぞれに確立したものとなっている。

しかし現在においては、3歳児健診が終了すると就学時まで健診の機会はない。この点について4歳または5歳等の時点においても健診の機会を設けるべきではないかとの問題提起がなされている。そこで健診の必要性について検討することとした。

健診の必要性については、受診者である乳幼児の保護者に対して行ったものは多く見られるが、今回われわれは保育園に勤務する、いわゆる保育者である園長、保母、看護婦に対してアンケート調査を実施し、健診の実態を調査するとともに、その意見を取りまとめたので報告する。

### 〈調査の対象と方法〉

本アンケート調査は大田区の全保育園にお

いて保育等にあたっている園長、保母、看護婦を対象として行った。回答は、保育園56園の園長、保母、看護婦の合計927名から得た。その内訳は表-1のとおりである。

表1 回答者内訳

園長		46
保母	0歳	133
	1歳	175
	2歳	168
	3歳	104
	4歳	93
	5歳	74
	その他	97
	(保母計)	844
看護婦		37
計		927

なおこれらの保育園に通園している園児は7,812名であり(平成元年1月現在)、これは大田区内の全乳幼児約41,984名の約20%に相当している。

この調査回答について、集計・分析・検討した結果について以下に述べるとおり報告する。

### 〈結果と考察〉

① 園での健診の実施状況であるが、各園においては定期健診として年2回、必ず実施している。その内容は身長・体重・胸囲・頭囲・内科的診察である。また大部分の園においては歯科健診、虫卵検査を実施しており、園によっては心理的健診を合わせ行っている。

これらはすべて園医が園に出向いて行うという形態で行われている。なお0歳児保育を実施している園においては、週1回、園医が園に出向いて診察を実施している。

これらの園において、健診を実施した結果、所見の見受けられる者に対する対応については、表-2に示すとおり、その86%については保護者に連絡して受診をすすめている。

表 2 所見ある者に対する対応

対 応	回答数(%)
保護者に連絡して受診をすすめる。	910 86.1%
園医に指導、治療してもらう。	131 12.4%
保健所に連絡し、精密検査をすすめる。	4 0.4%
特に何もしない。	2 0.2%
看護婦が対応	1 0.1%
専門機関を紹介	1 0.1%
無回答	8 0.8%
計	1,057 100.0%

表 3 園での健診は十分か

職 種	総数	十 分 である。	不 十 分 である。	どちらとも いえない。	無回答
園長	46	11 (23.9%)	19 (41.3%)	15 (32.6%)	1 (2.2%)
保母(0歳)	133	64 (48.1%)	21 (15.8%)	43 (32.3%)	5 (3.8%)
保母(1歳)	175	71 (40.6%)	15 (8.6%)	82 (46.9%)	7 (4.0%)
保母(2歳)	168	73 (25.6%)	24 (14.3%)	65 (38.7%)	6 (3.6%)
保母(3歳)	104	37 (35.6%)	13 (12.5%)	53 (51.0%)	1 (1.0%)
保母(4歳)	93	41 (44.1%)	11 (11.8%)	39 (42.0%)	2 (2.2%)
保母(5歳)	74	32 (43.2%)	5 (6.8%)	32 (43.2%)	5 (2.7%)
保母(その他)	97	28 (28.9%)	16 (16.5%)	46 (47.4%)	7 (7.2%)
看護婦	37	7 (18.9%)	17 (45.9%)	11 (30.0%)	2 (5.4%)
計	927	364 (39.3%)	141 (15.2%)	386 (41.6%)	36 (3.9%)

表 4 園外での健診受診の有無

職 種	総数	受 け て い る	受 け て い な い	不 明	無 回 答
園長	46	39 (84.8%)	1 (2.2%)	6 (13.0%)	0 (0.0%)
保母(0歳)	133	93 (69.9%)	10 (7.5%)	29 (21.8%)	1 (0.8%)
保母(1歳)	175	116 (66.3%)	12 (6.9%)	44 (25.1%)	3 (1.7%)
保母(2歳)	168	127 (75.6%)	9 (5.4%)	30 (17.9%)	2 (1.2%)
保母(3歳)	104	52 (50.0%)	12 (11.5%)	40 (38.5%)	0 (0.0%)
保母(4歳)	93	42 (43.0%)	13 (14.0%)	35 (47.3%)	3 (3.2%)
保母(5歳)	74	33 (44.6%)	20 (27.0%)	19 (25.7%)	2 (2.7%)
保母(その他)	97	64 (66.0%)	12 (12.4%)	18 (18.6%)	3 (3.1%)
看護婦	37	35 (94.6%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	927	601 (64.8%)	91 (9.8%)	221 (23.8%)	14 (1.5%)

また12%は園医に指導・治療してもらうと回答している。なお保健所に連絡し精密検査をすすめると回答した者が4名(0.4%)あった。

② 現在、園において実施している健診について、十分かどうかとの質問項目に対しては、表-3に示したとおり回答者のうち39%が「十分」、その15%が「不十分」、41%が「どちらともいえない」と答えている。

職種別に見ると、園長では「不十分」と答えた者が多かった。しかし4歳および5歳児担当の保母については「十分」と答えた者が多かったが、これは4・5歳児については健診のニードは少なく、現状でほぼ満足している状況であるということの意味していると考えられる。

③ 園児が園外で健診を受けているかどうかの質問については、表-4に示すとおり結果であり、園児の65%が園外で健診を受診しており、受けていないとの回答は9.8%であった。

この園外での健診の場所としては表-5に示すとおり保健所が最も多く、46%と半数近くを占めており主治医または病院小児科等の公費負担でない健診は27%であった。

表 5 園外で健診を受けている場所

場 所	人数(%)
主 治 医	186 (15.4%)
病 院 小 児 科	137 (11.3%)
保 健 所	553 (45.7%)
そ の 他	14 (1.2%)
無 回 答	319 (26.4%)

計 1,209 (100%)

④ 園の内外を通じての健診について見ると、「健診の機会は十分か」との設問については、表-6のとおり「十分」とする者が40%、「不十分」とする者が12.5%であった

職種別に見ると、4・5歳担当の保母では「十分」とする者が「不十分」とする者よりも4～5倍も多いのに対して、園長では「十分」と「不十分」とがほぼ同数であり、園長では健診機会の増加を望んでいることがうかがえる。

⑤ 健診内容についての意見を見ると、表-7のとおり「十分」とする者が「不十分」とする者の約2倍認められる。

「不十分」とする者は全体の17%を占めており、特に園長と看護婦が「不十分」と感じているようである。

「不十分」の内容としては表-8のとおりであるが、視覚検診、聴覚検診、心理判定などが無いことを不十分としており、また健診が雑であってひとりずつの児の診察にかける時間が短すぎることを上げている者が多かった。

また健診そのものだけでなく、保護者に対する保健指導、保育者に対する指導を望んでいる者があった。

⑥ 園医についてであるが、全ての園に園医が置かれている。これらの園医についてその標榜科目および年齢、性別について見ると表-9のとおりであった。0歳児保育を実施している園では、週に1回、園医が来園し、児

表 6 健診の機会について

職 種	総数	十 分 である。	不 十 分 である。	どちらとも いえない。	無回答
園長	46	18 (39.1%)	16 (34.7%)	9 (19.5%)	3 (6.5%)
保母 (0 歳)	133	56 (42.1%)	20 (15.0%)	50 (37.5%)	7 (5.2%)
保母 (1 歳)	175	83 (47.4%)	9 (5.1%)	76 (43.4%)	7 (4.0%)
保母 (2 歳)	168	71 (42.2%)	17 (10.1%)	74 (44.0%)	6 (3.5%)
保母 (3 歳)	104	40 (38.4%)	10 (9.6%)	47 (45.1%)	7 (6.7%)
保母 (4 歳)	93	40 (43.0%)	9 (9.6%)	40 (43.0%)	4 (4.3%)
保母 (5 歳)	74	28 (37.8%)	8 (7.8%)	33 (44.5%)	5 (6.7%)
保母 (その他)	97	25 (25.7%)	17 (17.5%)	43 (44.3%)	12 (12.3%)
看護婦	37	14 (37.8%)	10 (27.0%)	10 (27.0%)	3 (8.1%)
計	927	375 (40.4%)	116 (12.5%)	382 (41.2%)	54 (5.8%)

表 7 健診の内容について

職 種	総数	十 分 である。	不 十 分 である。	どちらとも いえない。	無回答
園長	46	12 (26.0%)	19 (41.3%)	10 (21.7%)	5 (10.8%)
保母 (0 歳)	133	36 (27.1%)	21 (15.8%)	66 (49.6%)	10 (7.5%)
保母 (1 歳)	175	69 (39.4%)	18 (10.3%)	81 (46.3%)	7 (4.0%)
保母 (2 歳)	168	51 (30.3%)	34 (20.2%)	76 (45.2%)	7 (4.2%)
保母 (3 歳)	104	36 (34.6%)	10 (9.6%)	51 (49.0%)	7 (6.7%)
保母 (4 歳)	93	32 (34.4%)	11 (11.8%)	47 (50.5%)	3 (3.2%)
保母 (5 歳)	74	27 (36.5%)	10 (13.5%)	31 (41.9%)	6 (8.1%)
保母 (その他)	97	19 (19.6%)	18 (18.6%)	47 (48.5%)	13 (13.4%)
看護婦	37	9 (24.3%)	15 (40.5%)	11 (29.7%)	2 (5.4%)
計	927	291 (31.4%)	156 (16.8%)	420 (45.3%)	60 (6.5%)

表 8 健診の内容について  
「不十分」と答えた者の「不十分」の内容

内 容	件 数
視覚検診	75
聴覚検診	70
心理判定、精神面	32
ひとりひとり丁寧に：総合的に不十分	34
保護者への指導	11
保育担当者への指導	5
H B等、血液検査	3
皮膚科、アレルギー	2
検尿	3
その他	8
計	243

表 9 園医の構成

男女別 ……	男	45人(80.4%)
	女	11人(19.6%)
年齢別 ……	30歳代	2人(3.6%)
	40歳代	5人(8.9%)
	50歳代	18人(32.1%)
	60歳代	25人(44.6%)
	70歳代	8人(10.7%)
標榜科目 ……	小児科	11人(19.6%)
	小児科・内科	9人(16.1%)
	内科・小児科	14人(25.0%)
	内科	13人(23.2%)
	産婦人科	4人(7.1%)
	その他	4人(7.1%)

の診察にあたり、その他の園では予防接種も含めて平均年6～7回来園している。

これらの園医について、園のスタッフの感想をまとめた結果は表-10のとおりである。

⑦ 主治医について見ると、97%の園児が主治医を持っているという結果が現れているが、主治医を持っていないと思われる者が3%程度あった。

そしてこれらの主治医の意見・診断・指示内容のために園内で種々の問題が生じることがあるといわれているが、これについての意見は表-11のとおりである。

これによれば判断の違いを挙げている者が64%、30園にのぼっているが、これは主に伝染性の疾患の治癒判定と感染期間の問題であって、感染なしとのことで登園し、他児が感染・発病したという事実もあげられている。

⑧ また、保育園内で独自に園児のために特に何かをおこなっているかとの設問については表-12のとおり、うすぎ保育37園、はだし保育25園、外気浴1園であった。

⑨ その他、園児の健康管理について自由意見をまとめると表-13のとおりである。

表 10 園医についての保育園スタッフの感想・要望

保育園スタッフの感想・要望	保育園数
良く相談にのってくれるなど感謝している	7 (12.5%)
特に意見も要望もない	33 (58.9%)
小児科専門医であってほしい	4 (7.1%)
きわめて不十分、診察が雑、勝手に休む、 誤診、指導が不的確など不満が多い	10 (17.8%)
年齢が高すぎて心配	2 (3.5%)

表 11 主治医の指示によって園内で生じた問題

内 容	人数	%	園数
判断の相違	63	64.3	30
誤診	7	7.1	3
診断名のくいちがい	10	10.2	5
診断が信頼できない	1	1.0	1
園の方針と主治医意見との相違(誤解)	6	6.1	2
園の状況に無理解	5	5.1	3
投薬時間について問題あり	6	6.1	2
	98	100.0	46

〈おわりに〉

乳幼児健診の現状と問題点を調査し、今後の健診のあり方を検討するために保育園の保育担当者に対して実施したアンケート調査の結果を報告した。

この調査によって現在の乳幼児健診の実態と問題点が浮かび上がってきたように思われる。4・5歳児での健診の必要性はあまり多いものではなく、健診の機会を増やすことよりも内容の充実、質の向上が重要であり、小児科専門医による掘り下げた健診を実施していくべきである。

表 12 保育園独自に園児のために  
行っていることから

行っていることから	実施保育園数
薄着保育	31
はだし保育	25
外気浴	1
特になにもしていない	12

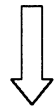
表 13 園児の健康管理についての自由意見

保育鑑別	
①園内での充実・改善の努力が必要	14人(10.2%)
②保母にも医学的知識が必要	8人( 5.8%)
③発熱児のための専用室が必要	3人( 2.2%)
④園内の協力体制が重要	1人( 0.7%)
	計26人(18.9%) 園長3 保母23
保護者別	
⑤家庭との連絡・協力体制を	19人(13.9%)
⑥保護者への教育・指導	31人(22.6%)
⑦体調のよくない子は家庭保育で	6人( 4.4%)
	計56人(40.9%) 園長14 保母36 看護婦6
他機関との連携	
⑧保健所との連携を	7人( 5.1%)
	計 7人( 5.1%) 園長4 保母2 看護婦1
健診	
⑨健診の充実(心理相談・視覚検診)	9人( 6.6%)
	計 9人( 6.6%) 園長1 保母4 看護婦4
マンパワー	
⑩園医は小児科医を	7人( 5.1%)
区常勤の医師を	1人( 0.7%)
園医の義務はやめる	1人( 0.7%)
質のよい園医を	9人( 6.3%)
看護婦の常勤を	11人( 8.0%)
看護婦の業務内容検討	2人( 1.4%)
体調の悪い児のために保育者を	1人( 0.7%)
	計32人(23.3%) 園長7 保母20 看護婦5
その他	
園での限界その他	7人( 5.1%)
	計 7人( 5.1%) 保母5 看護婦2



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

乳幼児健診には、行政のおこなう種々の健診をはじめとして、医療機関において実施する健診、保育所等で行う健診等があり、それぞれに充実してきている。

行政で行っている健診は、医師会等に委託して行っている健診を含めると、子どもの発育段階に応じて「新生児訪問指導」「3・4ヵ月健診」「6・9ヵ月健診」「1歳6ヵ月健診」「3歳児健診」があり、それぞれに確立したものとなっている。

しかし現在においては、3歳児健診が終了すると就学時まで健診の機会はない。この点について4歳または5歳等の時点においても健診の機会を設けるべきではないかとの問題提起がなされている。そこで健診の必要性について検討することとした。

健診の必要性については、受診者である乳幼児の保護者に対して行ったものは多く見られるが、今回われわれは保育園に勤務する。いわゆる保育者である園長、保母、看護婦に対してアンケート調査を実施し、健診の実態を調査するとともに、その意見を取りまとめたので報告する。